

「世界の先住民生存捕鯨—現況と課題—」

浜口尚（園田女子学園大学短期大学部）

本講演においては、2018年現在、「国際捕鯨取締条約」附表においてその権利が承認されている先住民生存捕鯨の5事例を取り上げ、その現況と課題などについて概説する。5事例とは、①米国、アラスカ州の先住民（イヌピアット、ユピート）によるホッキョククジラ捕鯨、②米国、ワシントン州の先住民（マカー）によるコククジラ捕鯨、③ロシア、チュコト自治管区の先住民（チュクチ、ユピート）によるコククジラ捕鯨、ホッキョククジラ捕鯨、④デンマーク、グリーンランドの先住民（カラーリット）によるナガスクジラ、ミンククジラ、ホッキョククジラ、ザトウクジラ捕鯨、⑤セント・ヴィンセントおよびグレナディーン諸島国、ベクウェイ島民によるザトウクジラ捕鯨である。話者は1991年以降、ベクウェイ島のザトウクジラ捕鯨について継続的に現地調査を実施している。